

花水木だより

第 97 号 令和 4 年 8 月
千種区鯉城会会報
発行／花水木鯉城会



〈 花水木鯉城会の輪を広げよう 〉

お知らせはこちらから⇒





目 次

表紙	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
目次	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
巻頭言	樫澤副会長	3
令和4年度 第1回地域長会議	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
地域会だより	今池	5
	振甫／若水	6
	城山／東星	7
	千種台／千種	8
令和4年度 第1回地域ミーティング (34期生対象)	・・	9
高齢者の“生きがい”とは? (高齢社会白書より)	・・	10
このマークは何かな?	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
クリーンキャンペーン名古屋・2022	・・	12
地域会交歓ボウリング大会	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
ハーモニカ同好会／グラウンド・ゴルフ同好会	・・	14
会員投稿	天才促成講座 驚異の算数(その1)	15
	危うし 昭和塾堂	16
	エッセイ・トイレの話	17
	時代小説ベストセラーを読んで	18
花水木だより投稿募集／編集後記	・・・・・・・・・・・・・・・・	19
今後の行事予定 (裏表紙)	・・・・・・・・・・・・・・・・	20



表紙の言葉

「咲き誇るユリの花」

久連石 一彦 (24期 地域)



千種公園は名古屋随一のユリの名所として有名です。
 約10,000球ものユリが、5月下旬から6月中旬にかけて、
 黄、白、オレンジ、ピンク色など、色鮮やかに咲き誇ります。
 撮影したのは6月4日で、ちょうど見ごろでした。

巻頭言



「デジタル・デバイド」の小さな解決

～花水木鯨城会HPへのご招待～



社会奉仕委員長
檜澤 一也 (31期 生活B)

花水木鯨城会のHP(ホームページ)をご覧になったことはありますか?

鯨城会が各区のHPを統括した総合HPを作っていて、その中に花水木鯨城会のHPがあります。開いてみると当鯨城会内の様々な情報が分かります。運営委員会の報告、同好会のニュース、地域会の活動状況、個人のエッセイなどです。それぞれの投稿に対して、感想や見解を交換する欄も用意されています。

ご覧になっていない方は、パソコンを持っていない、デジタル環境は自分に必要ない、興味はあるがやり方が分からない等、いくつか理由をお持ちだと思います。しかし今、私たちはデジタルの世界を避けて通ることはできなくなっています。避けていけば自ら“損をする道”を選択することになってしまいます。

なぜ損をするのか、キーワードは「デジタル・デバイド(情報格差)」です。

身近な例でワクチン接種の予約を考えてみましょう。接種予約開始情報をいち早く知り、WEBで申し込んだ方は比較的簡単に予約ができた一方、電話で申し込んだ方はどうでしょう。何時間も電話し続け、やっと繋がったという話を聞きました。繋がったからいいようなものの、繋がらなければ命の保証すら危ないところです。これは特別の例ではなく、今後公的機関からの情報連絡などは全てWEBを通して伝達されるよう、急速に切り替わっていきます。

同じ国民なのに、デジタルで対応した方と、できずに割を食った人の間に、時には命に係わるような「格差」が生まれます。この格差が「デジタル・デバイド」です。デジタルは自分に必要ない、とか言っている場合ではありません。デジタル世界はそう言うあなたを置き去りにして、どんどん進んでいきます。

では、この流れにどのように向き合ったら良いのでしょうか。いきなりデジタル世界の真ん中に飛び込むのは難しいですね。手近なところから触れてみましょう。まずは花水木鯨城会HPを閲覧してみるというのはどうでしょう。本号11頁に、運営委員会のIT担当が、現在スマホをお持ちの方々のために、易しくHPを閲覧する方法を紹介しています。ぜひ実行してみてください。きっとあなたのデジタル世界の門が開くことでしょう。門が開けば、案外食わず嫌いだっただ自分に気が付くかも知れません。

デジタルの世界に馴染んでゆくと、予想もしなかった展開がおとずれ、新しい生きがいのヒントに巡り合うかも知れません。あるデータによれば、デジタルの世界に馴染んでいる人は、そうでない人の3倍も「生きがいを感じる」と回答されたそうですよ。

令和4年度 第1回地域長会議 報告

総務委員長 高橋 満里 (30期 環境)

日 時 令和4年6月28日(火) 15:00~17:00

場 所 千種区社会福祉協議会 1階研修室



今回の会議は、従来の、「各地域長の方々が、担当地域会の現状をお一人ずつ発表して終わる」という方法を転換して、地域長、地域幹事、運営委員の全員参加によるグループディスカッション方式を採用しました。

出席者全員を3グループに分けて、8人単位で“島”を作って座って頂きました。各々の“島”

では、「進行係」「書記」「発表者」を決め、予めお配りした「会議要項」に沿って、45分間話し合ってもらい、最後に3グループが、それぞれに、ディスカッションの結果をまとめて発表して頂く方法にしました。

この日の議題は、「地域会活動の活性化について」でした。出席者の方々は、最初、落ち着かない様子でしたが、進行係の案内でとりあえず会議はスタートしました。

最初に驚いたのは、会議場全体が急に、がやがや、ざわざわし始めた事です。少なくとも常時3人の声が、3つの“島”から響いてきました。皆さん全員が発信者でした。じっと聞いているばかりの会議ではありませんでした。腕まくりをして、一生懸命お話をしていらっしゃる方を見た時は感動しました。

45分間のグループディスカッションが終わり、最後のまとめを発表する時が来ました。3人の発表者は地域長が担当されたせいか、各グループの話し合いの結果が、大変熱く語られました。地域長は意欲的な方ばかりで、重い責任を背負って出席されていると強く感じました。3グループそれぞれの書記の方の記録も良くできていました。

先日、「シニア世代の明日を応援」というテーマの講座で、「シニア世代は、若い世代から見ると、心身共に危なっかしい」という現実を感じましたが、今回の地域長会議での「グループディスカッション」で伝わってきた皆さんのパワーは、シニアとは思えない程に力強いものでした。

今後、必ず、花水木鯨城会の「地域会活動の活性化」が進むと確信しました。



地域長会議 グループディスカッション

「地域会活動の活性化」について、
グループごと自由に意見を頂きました。

活性化に向けて

東星・若水・千種 グループ

- ・小グループ制によって顔見知りになり、行事に参加しやすく。
- ・宅配者から行事の声掛けを。
- ・過去の運営委員の方に参加の声掛けなどの協力をして頂く。



今池・城山・振甫 グループ

- ・活動予定などをきちんと周知する。
- ・先輩、後輩のつながりも大事に。
- ・“ワインとランチ会”を予定したい。
- ・コロナ禍で停滞していた行動や気持ちもちが復活の兆しはある。

振甫・千種台・千種 グループ

- ・社会貢献も同好活動も“生きがい”につながる事をしっかり伝える。
- ・楽しい魅力ある会にすることが大事で、それにより新入会員を増やす。

今池地域会

地域長 福田 由美子 (28期 福祉)



本年度は、6名の会員減少で31名のスタートです。
例年通り年4回の花水木だより配布を兼ねての地域会開催（5月・8月・11月・2月）と公園の清掃当番（6月・1月）が主な活動となりますが、ご要望のあった近郊公園散策や前年度開催のボッチャ体験会の再度の開催等々を会員の皆様に提案をしていきたいと思っています。地域会開催時に、参加者に「ひとことちょこっと発言」をお願いしています。その中には、「趣味を生かした活動をしている」「良いお仲間に出会えた」等々自分の居場所を見つけ元気にお過ごしの際意欲的な発言が多いです。この今池地域会もそんな居場所の一つになっている事がとても嬉しいものです。

今後も益々の交流を深め、お仲間が集いあえる居場所となるよう努めたいと思います。

また、退会をされた先輩へも時々、「声だより」をお届けしたいとも考えています。

振甫地域会

地域長 脇所 耐 (29期 生活B)



＜コロナ禍でも可能な限り会員の皆様との親睦を図りたいと考えています。＞

2020年(令和2年)4月1日でもって前任者片山氏より引継いで今日に至っておりますが、この間ご案内の通りコロナ禍のため、地域長として拝命されたものの、ほとんどの計画が実行できず会員の皆様との懇親が希薄になる状態にあり誠に残念な事でもありました。公園清掃や新人歓迎会或いはブロック長会議等々行動制限下において、かろうじて実施した程度でありました。

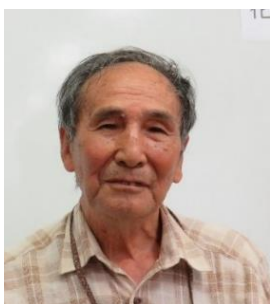
その間、行事实施に際し、鯉城会の会員でもなかなか親睦の機会がないとの懸念から若水地域会との合同行事によって、仲間意識の高揚と親睦に大いに貢献しようとの意見に合致し、これまで4回実施の経緯がございました。いずれも19名～25名の方々の参加を頂いております。今後も続けてまいりたいと存じます。

勿論、コロナ禍が小康状態であれば、振甫地域会としての年間計画がございしますので、臨機応変に実施の運びに致したいと考えております。



若水地域会

地域長 浅野 隆弘 (28期 地域)



本年度は、5月6日の総会兼ランチ会から始まりました。総会にて、若水会の年間行事計画表を配布、新年度の役員幹事の承認、活動予定内容の説明を行いました。また、欠席の方々に対してもAからFまでの6ブロックの宅配責任者(ブロック長)を通じて、趣旨の周知徹底を致しました。

若水地域会は、ブロック長さんの活動が活発で、非常に助かっています。振甫地域会との合同見学会、高見コミュニティセンターでのボッチャ体験イベント、千種公園でのお花見会、ボウリング練習会等々、いろいろ企画しますが、多くのアイディアマン、アクティブレディーたちのお陰で、いつも楽しい活動が来ています。

6月に行われたクリーンキャンペーンの行事を案内したところ、多くの方がすぐに応募していただき、花水木鯉城会のボランティア活動のお役に立てたと自負しています。これからも、楽しく元気な地域会にしたいと思います。

城山地域会

地域長 松川 正信 (29期 地域B)



城山地域会は、花水木鯨城会の中でも最大の人数です。しかしながら、コロナ禍の中で、活動に対して慎重になり、このところ、目立った行事を実施していません。

企画を立てながら、3度ほど中止したことがありました。

ただ、城山地域会の会員の中には様々な才能や知識を持った方が多く、そんな力を活用したイベントが出来ればと計画しています。

例えば、今池の「ガス燈」でワインの勉強会をやろう、といったような内容です。他にも色々な案はありますので、何とか実現できればと思っています。



東星地域会

地域長 木下 幸紀 (25期 地域)



東星地域の2代目地域長の森川さんが地域長の時に、このような文章を残されています。「グループ会合は少人数で名前と顔がわかり合えるために、参加率は75%ぐらい。ちなみに東星地域会の総会は63%、花水木総会での東星地域の参加率は35%で、小グループに勝るものはない」。このことからすると、名前と顔がわかり合えることが地域会の運営・活性化に重要なポイントと考えられます。

しかしながら、東星地域会は2年前に、グループ長のなり手がないたため、4グループ制を廃止せざるをえなくなりました。また、今年木下が地域長に就任するのも2回目で、地域長のなり手がなかったために緊急避難的な再登板となりました。

このように、東星地域会の組織としての運営は困難になりつつありますが、「名前と顔がわかり合える」ことをモットーに、4グループ制の復活（東星地域の会員数はこの数年で6割ぐらいに減少しているため、グループの集約があっても良い）を図りたいと考えています。

千種台地域会

地域長 福島 好明 (30期 文化A)



7地域会からなる、花水木鯨城会で、そのボランティア活動の基軸でもある公園清掃。その公園、茶屋ヶ坂公園は富士見台学区、鹿子公園は自由が丘学区にあり、中学校区になると両方とも千種台学区になり、花水木鯨城会においても千種台地域会の足元「私たちの公園」という事になる。暑い日、寒い日、電車や自転車で時間と労力をかけ、「遠くの公園」の清掃に来られる方々から見れば“歩いて行けるなんて、何と恵まれているの”と思われることでしょうか。もっと近くの公園の清掃に成らないかとの声は、多くの地域会からも出ています。千種台地域会の皆さんは永年の事ゆえ、当たり前のことと成っているやに思います。恵まれた条件に甘えることなく、より綺麗な公園にしたいと思います。また多くの会員の皆さんが集い、話が弾む機会を企画し、より楽しい地域会に成るよう努めたく思います。



千種地域会

地域長 筒井 孝志 (30期 地域A)



千種地域会は宮根学区と千代田橋学区の2学区で構成され、令和4年度の会員数は、昨年度から3名減の29名となりました。2年間新入会員がいない中、会員が高齢化したことやコロナ禍で活動が沈滞した影響があったと思っています。

昨年度は、コロナ感染拡大の合間を縫って8月、11月、2月に3回の例会を開催、3月には千種台地域会と合同で大須演芸場の寄席観賞会を開催しました。

本年度になり5月に第1回目の例会を開催したところ15名の参加があり、例年よりわずかではありますが参加者が増加しました。コロナ禍を抜け出す兆しかもしれません。

会員は地域の高齢者団体や防災会活動などの町内会活動、ボランティア活動、同好会活動など多方面で活躍されており、地域会主催の活動だけで評価せず、出会った時に励ましたり愚痴を聞いたりするなど「活躍する会員の元気」を支える会員同士の交流にも目を向けたい。

令和4年度 第1回地域ミーティング（34期生対象）報告

総務委員長 高橋 満里（30期 環境）

日時 令和4年6月16日（木）・17日（金） いずれも 10時～11時30分
場所 千種区社会福祉協議会 1階研修室

来年3月に、鯉城学園を卒業される34期生の皆さんを対象に、花水木鯉城会の活動内容を知って、卒業後に地域で活躍して頂きたいとの願いから、花水木鯉城会と千種区社会福祉協議会が連携して、ミーティングと見学会を実施させて頂きました。



34期生の参加者は、16日が7名、17日が8名、合計15名でした。

初日は、小松会長の挨拶に続いて、来賓の名古屋市高年大学鯉城学園 大友康法・学務主任からも挨拶があり、その後、2階の在宅支援サービスセンター（デイサービス）の見学、千種区社会福祉協議会の活動内容説明や、花水木鯉城会の活動紹介を行いました。プロジェクターを用い、写真、イラストなどを組み込んだ編集画像を投影、各地域会の活動、同好会の紹介、運営委員会の組織、ボランティア活動の実績等々、小松会長や樫澤副会長、社協の加納さんから、パワーポイントを使って34期生の皆さんへの熱心な説明がありました。

その間、会場の一角では、コーヒーサロンボランティアの皆さんにより、コーヒーが準備され、皆さんに、コーヒーを楽しんで頂きました。感想をお聞きしたところ、とてもおいしいと好評でした。34期生の机の上には、歓迎メッセージやお花が置かれ、コーヒーと共に和やかな雰囲気にする事が出来ました。

34期生の自己紹介や質疑応答など、おもてなしスタッフとのコミュニケーションの機会もあり、短い時間でしたが、有意義なミーティングが出来ました。

2日目も同様の内容で実施されましたが、2日間に及ぶのは千種区のみと聞きました。来年度、一人でも多くのお仲間が増えることを願っています。



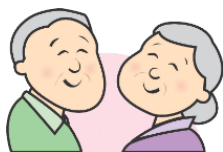
デイサービス見学

高齢者の“生きがい”とは？

—令和4年度 高齢社会白書より—

花水木鯨城会

会長 小松 憲次 (32期 美術)



本年6月14日、閣議決定されました「高齢社会白書」には、65歳以上の高齢者の“生きがい”について、調査結果がまとめられています。

調査は2021年12月に、全国の60歳以上の男女4,000人に郵送で実施。有効回答率は60.9%。白書では65歳以上の回答(2,049人)を取り上げています。今回初めて、質問ごとに“生きがい”を感じる程度を尋ね分析されました。

【高齢者の2割が“生きがい”持たず】

およそ2割が「生きがいを感じていない」と回答したことが分かりました。結果として“生きがい”を「感じている」と答えた人は全体の72.3%だった一方で、「感じていない」と答えたのは20.5%に上りました。



また、“生きがい”を感じている人は、収入を伴う仕事や地域の社会活動などに参加している傾向が高かったほか、「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」と答えた人は「情報機器を使わない」と答えた人に比べて、“生きがい”を感じている割合が高い傾向にありました。近所づきあいや外出頻度が多い人ほど生きがいを感じる割合が高かったとのことです。



白書では、高齢者が充実した暮らしを送るためには、地域での居場所を持つことや、情報格差の解消などが重要だとしていて、高齢者がこうした機会を得られるよう、環境の整備を進めるべきだとしています。

【ネットで“生きがい”3倍に。65歳以上、未利用者と比べ】

インターネットやネット交流サイト(SNS)を利用している65歳以上の高齢者は、使っていない人に比べ「“生きがい”を十分に感じる」と回答した人が3倍以上となりました。白書は「今後も高齢者のデジタルディバイド(情報格差)解消に向けた支援が重要」と強調しています。



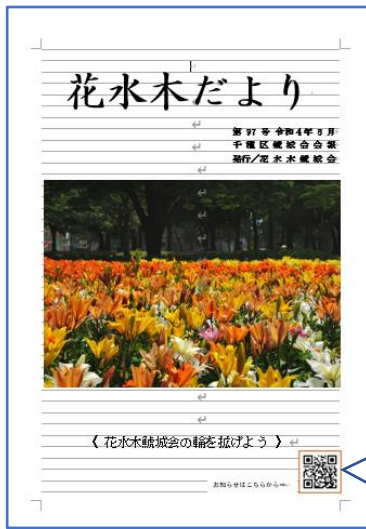
【高齢化率は28.9%】

白書の冒頭「高齢化の状況」では、我が国の総人口は、令和3(2021)年10月1日現在、1億2,550万人。65歳以上人口は、3,621万人となり、総人口に占める割合(高齢化率)が28.9%となっています。

また、65歳以上人口を男女別に見ると、男性は1,572万人、女性は2,049万人で、性比(女性人口100人に対する男性人口)は76.7であり、男性対女性の比は約3対4となっています。

このマークは何かな？

HP担当 古田 昇 (31期 振甫)



皆さん、今回配布された花水木だより 97号の表紙の下の方に小さなモザイク模様のマークが印刷されているのに気が付きましたか？これは「QRコード(※)」と言って鯉城会ホームページの中に設けられた「花水木鯉城会お知らせ掲示板」をスマホから見るために掲載されたものです。どのように使うか私のスマ

ホでやってみましょう。(※「QRコード」用語は(株)デソウウェブの登録商標です)



- ①本号の表紙をご覧ください。
下の方に「QRコード」があります。
(この場合、左の「QRコード」でも結構)

- ②スマホのカメラを「QRコード読み取り」状態に設定します。
(設定方法はスマホにより異なりますので説明書を読むか詳しい人に聞いて下さい)

- ③スマホのカメラを「QRコード」に向けるとスマホの画面に「お知らせ掲示板」のURL(宛先)が表示されます。

kojyokai.net/hanamizuki



- ④このURLないしはシャッターボタンをタップすると「花水木鯉城会お知らせ掲示板」のページが表示されます。



「お知らせ掲示板」には皆さんから寄せられた花水木鯉城会の行事、公園清掃活動、地域会、同好会の活動状況などが掲載されています。(4月9件、5月15件、6月13件掲載しています)。

花水木だよりの電子速報版、弟分としてかわいがっていただければうれしいです。「私も投稿してみたい」という方には自分でいつでも投稿することができますし、不安な方には原稿と写真を送っていただければHP担当が代行投稿することもできます。

クリーンキャンペーン名古屋・2022 に参加



社会奉仕委員長
樫澤一也(31期 生活B)

去る6月4日(土) 2年ぶりに全市一斉のクリーンキャンペーンが開催されました。

花水木鯉城会の担当エリアは春岡学区でした。このエリアは若水地域会の地元です。その関係もあり若水地域会からの参加者12名を中心に、全部で32名が参加しました。

8名ずつ4つのコースに分かれて、1時間ほどの清掃活動を行いました。提供されたゴミ袋は1枚3円のレジ袋よりはるかに小さいので、こんなもので足りるものかと思っていました。しかし、落ちているのはキャンディの個包装とかタバコの吸い殻など小物ばかりで、中々一杯になりません。たまに大物が有ると、競って取りっこをする有様でした。

地元の皆さんの高い美化意識が伺われました。



4月の総会・懇親会以来久しぶりに顔を合わせた方もいらっしゃるのでしょうか、あちこちで、楽しそうな笑い声が聞こえてきました。“クリーンキャンペーン”などとおしゃれな表現をしても所詮ゴミ拾いでしょ、と言ってしまえば身も蓋もありませんが、このようなイベントは貴重な会員交流の場である側面も見逃せません。マスクはまだ外せませんが、顔を突き合わせて会話することは何よりのストレス解消になります。

久しぶりのイベントでどれくらいの方に参加していただけるのか、大いに心配しておりましたが、そんな心配は杞憂に終わりました。会員の皆さんは上手にこのような機会を活用されておりました。

ところで、黄緑色の花水木鯉城会ユニフォームに混じって、パリッとスーツ姿のジェントルマンが目にとまりました。実はこの方、新任区長の矢野克典氏であることを後で知りました。

“花水木鯉城会ガンバっております。よろしくお願ひ申し上げます”

地域会交歓ボウリング大会

行事委員長 南 清貴 (31期 園芸)

7月11日(月)、花水木鯨城会の地域会交歓ボウリング大会が本山ボウルで10時より開催されました。

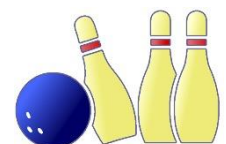
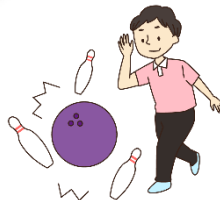
コロナ禍も小康状態でしたが、感染者数の急増で第7波が始まったとのマスコミ報道もあり、マスク着用でのプレーとなりました。

参加者全員による準備体操後、小松会長の始球식을皮切りに、ボウリング全盛の時代を謳歌した総勢26名で熱戦を繰り広げました。

地域会優勝は昨年の覇者、振甫地域会、同準優勝は今池地域会、同3位は城山地域会でした。



本年は女性活躍の大会を目指して、レディース・ハンディキャップ特典を設けました。その結果、個人優勝は、杉浦秋子さん、同準優勝は、山本一さんとなりました。久しぶりの運動。皆さんコロナを吹き飛ばす勢いで頑張っていました。



ハーモニカ同好会



代表 小出 敏広 (32期 文化A)

今年4月に、男性3名、女性4名でスタートしました。

ハーモニカは、特にアンサンブルを覚える事は、そんなに多くありませんが、初心者でも、ハーモニカ独特の「言語」を覚えなければいけません。それは、数字の1から7です。しかし、これは、すぐに覚えられます。ハーモニカの長所の一つに、「苦しくない」ことがあります。これは、「吹く」と「吸う」の繰り返しだから、いつまでも続けることが出来るからです。

練習曲は、「ふるさと」や、「富士山」など、親しみのある曲が中心です。

みんなですれば怖くない!! 個々に上手になるのも良いですが、アンサンブルするのも、また、楽しいですよ。

練習日 第1・第3土曜日

場 所 内山コミュニティセンター

(地下鉄今池1番出口から徒歩5分)

時 間 午後1時10分から2時50分

会 費 月1,000円

連絡先 080-3624-2716 小出

直接、練習場に来て頂いても結構です。



グラウンド・ゴルフ同好会

鯨城会主催グラウンド・ゴルフ交歓会へのお誘い

代表 木下 幸紀 (25期 地域)

鯨城会主催の、第21回グラウンド・ゴルフ交歓会が、下記の要領で開催されます。

交歓会は、花水木の会員であれば、誰でも参加できます。同好会の会員である必要はありません。町内会等での日頃の練習成果をご披露して頂ければと思います。

また、今までグラウンド・ゴルフを全くしたことが無い方でも、毎週火曜日、10時から鹿子公園で練習していますので、2・3回練習にお出かけ頂ければ、臆することなくプレーを楽しむことが出来ると思います。

開催要項

日 時 10月26日(水) 10:30集合 15:00解散

雨天中止。中止連絡は前日の19時以降に電話連絡

(延期はなし)

場 所 庄内緑地公園(陸上競技場)

地下鉄 鶴舞線 庄内緑地公園駅2番出口(競技場まで徒歩5分)

申込み 8月25日までに、木下へ(090-1095-6411 出来ればショートメールで)

参加費 300円(途中お会い出来ない方は、交歓会当日に、徴収します。)

なお、雨天中止を除き、参加費の返金はありません)



人生永く生きていると、大体の教養は身に付けてもう学ぶものは無いと無感動になる人や、頭が鈍ったからと新たな学びを敬遠する人が多くなる。しかし、一寸待った♥
 ここでは、頭を空にして聞く耳を持つ人だけを対象に、誰もが数分間で天才(?)になれる
 算法を伝授します♪ 自分の算数計算に不安を感じる方、飲み屋の勘定等に疑問を持つ方に朗報です♥
 結果の正否を簡単な暗算計算で即座に判定できます。予備知識は1桁の数の加減乗除算だけ、判定の速さは珠算の達人以上で♥?

まずは、小学校で習った算数とは異なる新常識(?)を身に付けましょう。

※ 何桁の数でも、横に並んだ各数字は足して答えが2桁以上になったらその操作を続けます。最後に得られた1桁の数は最初の数の生まれ変わりです!

(例1) 358という数は $3+5+8=16$ 。16という数は $1+6=7$ 。すなわち、**358という数は7**に生まれ変わりました。

(例2) 上と同じように、例えば**23という数は5**という数に生まれ変わります。

(例3) では、例1と例2の数の足し算をしてみましょう。普通の算数や電卓での計算 $358+23=381$ は、新常識(?)では **$358+23=7+5=12=1+2=3$** となるはずですが、もし計算が正しければ、答えの候補 **$381=3+8+1=12=1+2=3$** と一致します。

※ 複数桁の数を各桁の数字の足し算を繰り返して1桁の数にする際、2桁の数が現れる毎に1桁化してもよい。

(例3)の場合、 **$381=3+8+1=11+1=2+1=3$** と計算しても結果は同じです。各数字の加算過程で現れた2桁の数をその都度1桁にしておくとも便利です。

上記は足し算(加算)の検算だったが、例えば $D-A-B=C$ の引き算(減算)の検算は $A+B+C=D$ の検算で確認できます。従って、上記の算法は加減算一般の検算に使えます。なお、数字の並びを変えた答え(上の例なら831等)も有りうるが、実際の計算間違いは繰り上げ忘れによる371程度で、そうした誤りの指摘が重要です。

さあ、今回の加減算の検算ではもう天才の域に達したはず。沢山の検算を楽しみましょう♥ 不要と思いますが、もう一度、下の実例で確認しておきましょう♪ (続く)

265	$2+6+5=13=1+3=4$	}	$4+8+7=19$
314	$3+1+4=8$		$=1+9=10$
$+187$	$1+8+7=16=1+6=7$		$=1+0=1$
676	$6+7+6=19=1+9=10=1+0=1$		

新検算法の図解

$265+314+187=4+8+7$
 $=19=1+9=10=1+0=1$
 一方、答えの候補 $676=6+7+6=19=1+9=10=1+0=1$ で
両者は一致!

危うし 昭和塾堂

福島 好明 (30期 文化A)

千種区城山町の城山八幡宮の境内、末森城・二の丸址に聳える建物。

通りからは緑青が半分近く剥がれ落ち、不気味な洋館としか目に入らぬかもしれない。目にするも、その名前は人の口に昇る事はあまりない。

1928年(昭和3年)竣工された「昭和塾堂」である。

時は関東大震災直後、満州事変の直前の時代が混沌とする中、男子青年団活動が声高らかに叫ばれ、愛知県も昭和改元の記念にと青年教育・社会教育施設の建設にとり掛かる。建設費の4分の1は寄付に頼り、また幾多の青年団の勤労奉仕で日の目を見る事になった。

地上4階、地下1階、高さ(塔最先端まで)32m 真上から見ても横から見ても「人」という文字に見える。内部は西洋古典風意匠に富み、時を待たず建てられる名古屋市庁舎、愛知県庁舎などの日本建築を基調とした西洋式建築様式の先駆けとなった貴重な近代建築である。

ここで県下16万人もの青年たちの研修、修養の場と利用されることとなった。

その後、軍に接收され、戦後は大学の研究所、千種区仮庁舎などを経て、今は市から城山八幡宮へ返されている。

約1世紀の風霜に耐えれども、痛みは避けられず、通常は内部の見学は出来ません。

見学は地元の有志からなる会が主催される際にしかできません。今後の建物の利用を募るイベント等も開かれたりしましたが、道筋はできておりません。



<何時までもあると想うな昭和塾堂

見上げる塔のさす処>



山田 秋男 (26期 陶芸)

“トイレの神様”という歌があったと記憶している。

「おばあちゃんがいうには、一歌っているのはお孫さんであると気づくがー トイレには女神さまがいるよ。トイレをきれいに掃除すると女神さまみたいなべっぴんさんになるよ。それから毎日一生懸命にお掃除を励んだ。

ある日おばあちゃんと喧嘩してしまった。家を飛び出して上京した。

2年が過ぎておばあちゃんは病にかかり入院した。見舞いに行った。おばあちゃんは今なところに来ないで早く帰れという。涙しながら帰った。まるで見舞いを待っていてくれたように、翌日の朝、亡くなったという知らせが入った。私をちゃんと育ててくれたのに、喧嘩したことを反省した。」

我が家のトイレは、2階と3階の2カ所ある。建て替えとき、設計上の関係で2つとも狭い。通常なら一帖位ある。我が家は半畳くらいかな。狭いのだ。

女房は丁寧に掃除している。イナックス製便器を抱えるように座り込んで掃除している。私は、その姿を横目で見て感謝している。時には汚すことが往々にあるのだ。座り込んで懸命にやっているのだ。ソコソコにして置けばいいのにとと思うが、丁寧に掃除している。

トイレに入ると、この狭いことを恨んでいるというか、悔やんでいる。設計段階で何ともならないことに。不出来なつくりだと。

しかし、84歳になるとこの狭さが効用しているのだ。時折ふらつくことがあるのだ。トイレに入った途端フラとふらつくのだ。後ろに倒れそうになる。1畳もあるトイレではバツタンと倒れ頭を打って気絶しているであろう。ところがこの狭いトイレではすぐ後ろは壁である。倒れそうになっても壁に当たり体を支えてくれるのだ。こんな時に失敗作が私自身の命を助けてくれるのだ。

何事にも、失敗したことが往々にあり悔やむことが沢山ある。しかし、必ずしもそうではなく、いつかは役立つことを知るのだ。そんなことを思いながら、心地よく用を果たすのだ。そしてにんまりと。まさに、トイレの神様である。



井原忠政著“三河雑兵心得”

大村 悦郎 (30期 生活A)

日本経済新聞も人気を認めた時代小説“三河雑兵心得”シリーズは、“足軽仁義”から“小牧長久手仁義”まで8作が刊行されています。神奈川県出身の著者が、登場人物に生粋の三河弁(「たあけ」「ほうだら」「ほうか」)を駆使させ、すさまじい戦(いくさ)を繰り返す中でも、人間くさく面白いドラマを感じさせる物語になっています。

主人公の植田茂兵衛は、渥美郡植田村の生まれ、乱暴で嫌われ者となり、村を出て松平信康(後の徳川家康)の家来となった武将に足軽として仕えます。このシリーズでは、戦国時代家康の国盗り物語を背景に、数々の戦を通じて、茂兵衛が足軽から、騎馬武者に、さらに足軽大将に出世するまでがスピーディに描かれています。

物語の始まりは、1560年織田信長が桶狭間で今川義元を破り、尾張の統一を果たした頃で、家康は信長と同盟を結んだ後、三河一向一揆の鎮圧に臨み、茂兵衛が戦国武将の足軽として初めて参戦します。以後、姉川、三方ヶ原、長篠、甲州征伐、小牧・長久手まで、家康が拠点岡崎城から浜松城に移し、数々の戦を仕掛ける中で、茂兵衛は武将の本田平八郎忠勝に従い、毎度生死を懸けた戦いに挑みます。



浜松城

家康は、これらの戦の結果、三河、遠江、駿河、甲斐、信濃を領有するわけですが、茂兵衛は、いずれの戦においても持てる最大の力を発揮します。このシリーズで面白いのは、茂兵衛は「戦場で数百人の命を奪った」と語るものの、敵であろうと弱いものには情けをかける、傷ついた部下を戦場に置き去りにしない、という只の暴れん坊でない人間性や優しさです。武家出自の妻、寿美は、茂兵衛の心を「宥恕」であり、五常(人の道一仁・義・礼・智・信)の「仁」にあたると褒めてやります。

ところで、最新8作目の小牧・長久手では、犬山城に本陣を置いて南下する羽柴秀吉軍に、小牧山城に本陣を構えた織田信雄軍及び援軍の徳川家康軍が熾烈な戦いを挑みます。家康側、鉄砲隊以下100余名を率いた茂兵衛は、今や“中間管理職”、上将の無理難題に答えるべく、部下(寄騎)の資質や具足の配置を考え、より強力な戦術を必死に探ります。しかし、史実が示すとおり、主戦場の長久手では、家康軍が秀吉軍に戦術において勝り大勝したものの、政略にたけた秀吉が信雄に和睦を申し入れ、信雄が受諾したため、家康軍が撤退するという勝敗の分かりにくい結末となりました。



とにかく茂兵衛がこの先どのような出世の途をたどるか、乞うご期待です。

👉家康本陣があった長久手御旗山の石標と富士浅間神社

会員の皆様からの投稿募集

「花水木だより」は、会員皆様のご協力のもと発行させて頂いています。その為、以下の内容にて、皆様からの投稿をお待ちしています。

作品内容 エッセイ、俳句、短歌、川柳、かくれた特技、趣味など。
文章の場合は、半ページで400字、1ページなら800字程度
写真、イラストがあれば添付してください。

応募期間 次号掲載ならば、9月25日、それ以外は、いつでも受付
いたします。投稿が面倒なら、インタビュー取材に伺います

提出先 広報委員長 大澤 之夫 までお願いいたします。

TEL 090-3307-1160 気軽にお電話ください。

住所 〒464-0066 千種区池下町 2-63-25 グランドマンション池下 2805

Eメール ikeyuki0726@r3.ucom.ne.jp

お詫び



前号の花水木だより 96号の表紙に、お写真とコメントを投稿して頂きましたが、投稿して下さった方のお名前を記載していませんでした。「あの素敵な写真の撮影者はどなたですか」との質問を多く頂きました。撮影投稿頂いたのは、写真同好会の渡邊 孝子様(22期 生活A)でした。お詫びして、お知らせ申し上げます。

編集後記

コロナ禍もなかなか落ち着くことはなく、不安な世情が続きますが、そんな中でも、名古屋市や千種区も長く中止していた行事を徐々に復活させ、イベント、キャンペーンを安心・安全を気遣いながら計画実施するようになりました。このような動きに合わせて、花水木鯉城会も、地域長の方々を中心に、徐々に行事の開催が増えている様です。

本号では、各地域会の活動状況を紹介しながら、会員の皆様お一人お一人が、お元気に参加される様子を報告したいと、取材させていただきました。

花水木の会員には、地域に貢献され、趣味に、ボランティアにと、積極的に活動されておられる方も多く、その生き方に元気を貰いますが、そんな様子をお伝えして、皆様が充実した日々を過ごされるように、お手伝いが出来ればと願っています。

広報委員会 委員長 大澤 之夫 (32期 陶芸)

委員 大村 悦郎 (30期 生活A) 高木 収 (30期 地域B)

桑原 守 (32期 地域A)



今後の行事予定

鶴舞公園 クリーンキャンペーン

期 日 10月1日(土) 予備日 10月8日(土)

千種区民まつり

期 日 10月2日(日)

会 場 平和公園

第19回 趣味の作品展

期 日 10月12日(水)～16日(日)

会 場 愛知芸術文化センター12F アートスペースH

第21回 グラウンド・ゴルフ交歓会

期 日 10月26日(水)

会 場 庄内緑地公園

堀川清掃大作戦

期 日 11月5日(土) 予備日 11月12日(土)

第5回 16区フェスティバル

期 日 11月17日(木)

会 場 東スポーツセンター



次号予告 「花水木だより 98号」

封入日 令和4年 10月28日(金)

発行日 令和4年 11月01日(火)

花水木だより 第97号

発 行 花水木鯉城会

名古屋市高年大学 鯉城学園

発行日 令和4年8月2日(火)

発行人 会 長 小松 憲次

編集人 広報委員長 大澤 之夫